

RDA に見るこれからの図書館像

NPO 法人大学図書館支援機構

蟹瀬智弘

1. 図書館とは

(ア) 何をするとところか

- ① 読書
- ② 調べもの
- ③ 議論

(イ) 何が必要か

- ① 本、情報資源
- ② 建物、空間
- ③ 人

(ウ) 図書館とは何か、どうあるべきか

- ◆ が問われている時代

2. 図書館の目録

(ア) 目録データ

- ① OPAC
 - ◆ Online Public Access Catalogue
 - ◆ 個々の図書館の蔵書検索
- ② Cinii Books
 - ◆ 日本の大学図書館の所蔵検索
- ③ Cinii Articles
 - ◆ 逐次刊行物
- ④ NACSIS-CAT
 - ◆ NII（国立情報学研究所）
 - ◆ 共同分担入力
 - ◆ ①～③の基本データ

(イ) 目録の役割

- ① 蔵書管理
 - ◆ 蔵書の台帳
- ② 蔵書検索
 - ◆ この図書館にこの本はあるか
 - ◆ この図書館にこの著者の本はどんなものがあるか
 - ◆ この図書館にこの主題の本はどんなものがあるか

- ③ 資料検索
 - ◆ どんな資料があるか
 - ④ 所蔵検索
 - ◆ どこにどんな資料があるか
 - (ウ) 目録規則
 - ① 『Anglo-American Cataloguing Rules』 (AACR2)
 - ◆ 25 言語に翻訳、45 カ国で使用
 - ② 『日本目録規則』
 - ◆ 日本図書館協会発行
 - ◆ 洋書も扱える
3. 図書館とインターネット
- (ア) 蔵書と情報資源
 - ◆ どこまでが図書館か：図書館の範囲の拡大
 - (イ) アクセス：検索とリンク
 - ① Google の検索
 - ◆ 何かあれば良い
 - ② 図書館の検索
 - ◆ 全てを調べる
 - ③ 検索とリンク
4. RDA: Resource Description and Access
- (ア) 国際化
 - ◆ 全世界で使用できるように
 - (イ) 資源の多様化
 - ◆ 同一コンテンツの異なるメディア
 - (ウ) ユーザー重視
 - ◆ 図書館のための目録 → 利用者のための目録
 - (エ) 他のデータとの連携
 - ◆ データの再利用、共有化
 - (オ) RDA-Toolkit
 - ◆ オンラインで使用する
 - (カ) FRBR、FRAD
 - ◆ 目録に必要な情報とは何か
 - (キ) AACR2 の構成と RDA の構成
 - ◆ 資料種別ごと → 資料の中身と外側
 - (ク) RDA と日本の目録

◆ 『日本目録規則』の行方

5. LOD (Linked Open Data)

◆ インターネットをデータベースに

6. RDAに見るこれからの図書館像

(ア) 国際化

- ① 利用者の国際化
- ② 資源の国際化

(イ) 資源の多様化：資料の中身と外側

- ① 多様なメディア
- ② 必要な資料の見極め
- ③ 図書館とインターネット

(ウ) ユーザー重視

- ① 情報資源を活用するために
 - ◆ 不慣れな人にやさしく
 - ◆ 必要な情報を確実に

(エ) 情報を扱うプロフェッショナル